



TOKYO BOEKI GROUP

東京貿易グループ

第93期 事業報告書

2012年4月1日 ▶ 2013年3月31日

Active all over the world

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

東京貿易は昨年10月に、創立65周年を迎えることができました。これも偏に、株主の皆様をはじめとする多くの方々の長年のご指導ご支援の賜物と、心から深く感謝申し上げます。

当社第93期(2012年4月1日～2013年3月31日)の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2012年度における世界経済は、欧州の債務問題への懸念による景気後退局面が継続し全体として低調に推移しました。一方、日本経済は依然不透明感は拭えないものの、2012年12月の新政権発足後、景気回復に向けての政策が次々に打ち出され、円高是正、株高、企業や家計の景況感の上昇といった形で効果が出始め、急速に明るさを増しています。

このような経営環境の中、東京貿易グループ(TB-G)におきましては、「エネルギー機械産業」「技術・自動車・情報産業」「資源・鉄鋼・資材産業」「医療・生活・科学産業」の4産業グループにおいて、マーケティングから製造、販売、メンテナンスまで、一貫して専門性の高い独自の事業・サービスの提供を通じ、企業価値の最大化と永続的

な成長発展の実現に向け努めてまいりました。

この結果、当期の売上高は447億91百万円と若干の減収となったものの、経常利益は30億38百万円となり、過去最高益で締めくくることができました。

期末配当につきましては、既存事業ならびに新規事業への積極的な投資のための内部留保を確保する一方、株主の皆様への継続的な安定配当を基本とするとともに、2013年7月に東京貿易ホールディングス株式会社が発足することから、1株につき普通配当13円に記念配当3円を加え、合計1株につき16円とさせていただきます。

2007年に策定した「30年VISION」というグループの大きな目標に向かって、本年7月東京貿易株式会社から東京貿易ホールディングス株式会社へと社名を変更し、いかなる状況下でも揺らぐことのないTB-G連邦経営の“樹立”を目指し、グループ一丸となって鋭意推進してまいります。

株主の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2013年6月



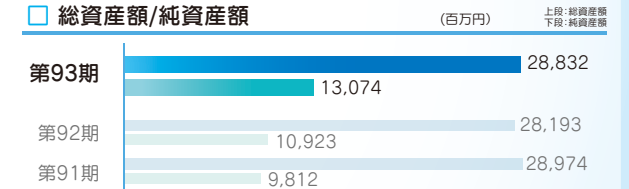
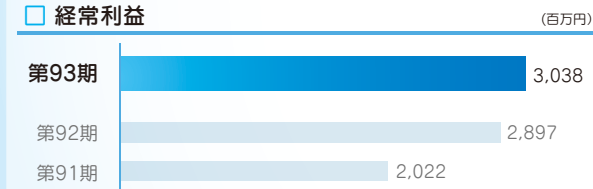
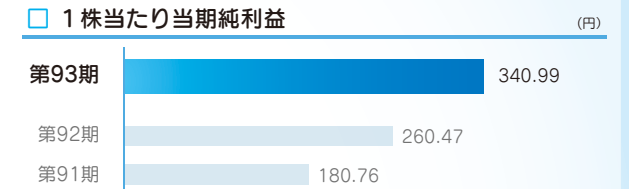
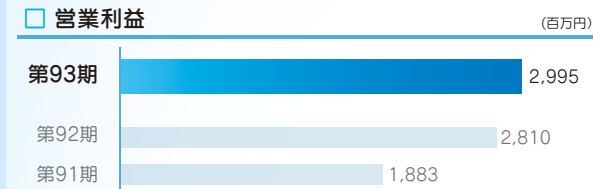
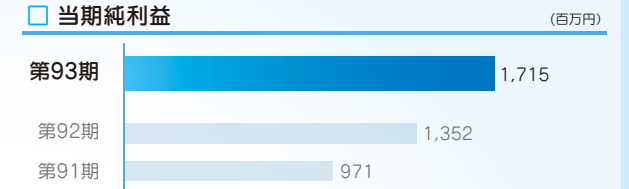
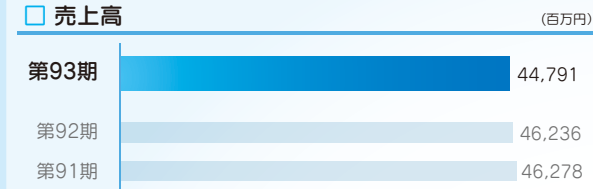
東京貿易グループ  
代表取締役会長  
町田 弘

東京貿易グループ創業の三精神(TOMAS精神)

1. 困難に打ち克ち努力する精神
2. 開拓者精神
3. 全員経営の精神

東京貿易グループの経営理念

東京貿易グループは、一人ひとりが仕事を通じて夢を実現でき、創造性豊かな会社になる。  
一人ひとりが誇りを持ち、世界に貢献する会社になる。



	第91期 (2010.4～2011.3)	第92期 (2011.4～2012.3)	第93期 (2012.4～2013.3)
売上高 (百万円)	46,278	46,236	44,791
営業利益 (百万円)	1,883	2,810	2,995
経常利益 (百万円)	2,022	2,897	3,038
当期純利益 (百万円)	971	1,352	1,715
1株当たり当期純利益 (円)	180.76	260.47	340.99
総資産額 (百万円)	28,974	28,193	28,832
純資産額 (百万円)	9,812	10,923	13,074

エネルギー・機械産業グループ



連結売上高	連結営業利益	売上構成比
12,936 百万円	2,174 百万円	29%

「エネルギー・機械産業」グループにおいては、原発問題により火力発電用のLNG需要が大幅に増加する一方、エネルギー供給構造高度化法により石油業界再編の流れが続いています。当連結会計年度後半からは円高基調が改善傾向にあるものの、海外各社との価格競争激化が続き、長年積み上げた顧客との信頼関係をベースに業績は堅調に推移しましたが、当グループとしては減収減益となりました。

国内グループ会社

東京貿易機械株式会社  
ニイガタ・ローディング・システムズ株式会社  
東京貿易メカニクス株式会社

連結売上高	連結営業利益	売上構成比
6,547 百万円	948 百万円	14%

「技術・自動車・情報産業」グループにおいては、日中関係の悪化により中国市場において日本車が大きくシェアを落とす中、自動車メーカー各社が円高により海外投資を積極的に進めた結果、三次元測定機など主力となる自動車関連機器の海外売上比率が上昇しました。また、自動車業界以外の他市場に対する販売拡大が進み、売上に占める比率も着実に上昇しています。情報関連産業においては、基幹システム開発などの大型開発案件はほとんど無かったものの、当グループとして増収増益となりました。

国内グループ会社

東京貿易テクノシステム株式会社  
株式会社ティービックス  
ティービーテック株式会社

海外グループ会社

TOKYO BOEKI NORTH AMERICA, INC.  
TBTS (THAILAND) CO.,LTD.  
東京貿易技研(広州)有限公司

技術・自動車・情報産業グループ



資源・鉄鋼・資材産業グループ



連結売上高	連結営業利益	売上構成比
15,764 百万円	164 百万円	35%

「資源・鉄鋼・資材産業」グループにおいては、資源事業は、マンガン事業の大口契約などにより増益となりました。鉄鋼事業は、歴史的な円高による日本製品の競争力低下が続きましたが、東南アジア市場の新規顧客開拓などにより増益となりました。一方、資材事業では、製鉄業界大手の経営統合に伴う耐火物のシェア争いが激化する中、為替相場が円高から円安基調に転じ減益となりました。また、建材事業は、年度後半からの円安基調の中、コスト削減や合理化に取り組みましたが、大幅な減収減益となりました。その結果、当グループとしては増収減益となりました。

国内グループ会社

東京貿易金属株式会社

海外グループ会社

TOKYO BOEKI (AUSTRALIA) PTY.,LTD.  
東京貿易(中国)有限公司  
東京貿易(北京)有限公司

連結売上高	連結営業利益	売上構成比
9,848 百万円	776 百万円	22%

「医療・生活・科学産業」グループにおいて、セキュリティ業界は、防犯カメラのシステムがアナログからIPへ大きくシフトが進むものの、セキュリティカメラの市場全体は微増に留まっております。そうした環境においても、国内販売拠点のトータルサービスを充実させることで、売上を大きく伸ばすことができ、大幅な増収増益を達成することができました。また、医療機器事業は、世界経済の低迷、為替の影響を受け主力取扱商品ピオリスの販売台数実績が前年を下回りましたが、コストの合理化により増益となりました。一方、ロシア市場では理科学機器案件の受注が低調で、減収減益となりましたが、当グループとしては増収増益となりました。

国内グループ会社

株式会社ティービーアイ  
東京貿易テクノロジー株式会社  
東京貿易メディスス株式会社

海外グループ会社

TOKYO BOEKI (RUS) LTD.  
TOKYO BOEKI (U.S.A.), INC.  
MONITOR PRODUCTS, INC.

医療・生活・科学産業グループ



東京貿易株式会社 取締役副社長  
グループ新規事業戦略担当  
東京貿易機械株式会社 代表取締役

五阿弥 英也



東京貿易株式会社 取締役副社長  
グループ新規商品・新技術戦略担当  
ニイガタ・ローディング・システムズ株式会社  
代表取締役

井口 孝夫



東京貿易株式会社 取締役副社長  
グループ新経営システム戦略担当  
東京貿易テクノシステム株式会社  
代表取締役

上田 俊昭



東京貿易株式会社 取締役副社長  
グループ海外市場戦略担当  
東京貿易金属株式会社 代表取締役

田中 政義



### TB-G新規事業の構築にむけて

東京貿易グループ(TB-G)の新規事業戦略担当として、第三次3カ年計画の中でTB-Gの売上と収益の拡大を目指し、TB-Gのマーケティング力をベースにした新事業の構築を目指してまいります。新規事業の領域としては、TB-Gが長年培ってきた機械分野を中心に、国内外の技術力のある製造業、開発会社を対象にしたM&Aにより、1事業で売上規模100億円のポテンシャルがあり、TB-Gとシナジー効果が出せる事業開発に取り組みます。グループ会社の1つである東京貿易メディシスのメディカル事業は、1999年に新規事業としてスタートしましたが、主力商品である血液分析装置は現在70カ国以上へ輸出しており、販売実績も5,500台と将来有望な事業として発展成長しています。30年VISION達成の為に、新規事業の開発を通して、TB-Gのさらなる飛躍に貢献できるよう邁進致します。



### グループシナジーの発揮にむけて

東京貿易グループ(TB-G)は、4つのグループ(「エネルギー機械産業」「技術・自動車・情報産業」「資源・鉄鋼・資材産業」「医療・生活・科学産業」)で構成され、付加価値の高い商品・サービスの提供を通して、事業成長・発展の実現に努めてまいりました。更なる成長発展のために、我々は、お客様のニーズに応えた新たな商品・技術をスピーディーに提供し続けなくてはなりません。これまで、TB-Gにおける多くの商品開発・技術開発は、グループ各社で完結していました。そこで、TB-Gは、各社開発計画を一元管理し、有用な情報をグループ内にフィードバックする取組を始めました。これにより、グループ会社間で開発に関する有用な情報を共有し、各社の新規商品・新技術開発の推進・サポート役となり、更にグループシナジーの発揮に貢献してまいります。

### グループシナジー



エネルギー機械 技術・自動車・情報 資源・鉄鋼・資材 医療・生活・科学

### 新経営システム「TIS」構築にむけて

グループ新経営システム戦略担当として東京貿易グループ全体の経営体質向上の為にグループ間を横串でつなぐ新経営システムの構築を行います。

具体的には以下の5項目を推進いたします。

- ◎ 東京貿易全グループ会社の販売・会計・人事給与並びに資産を横串でつなげる基幹システム「TIS」のユーザ向け機能向上並びに経営に直結するシステムの構築。
- ◎ Business Intelligence「BI」を利用した、経営分析ツールのシステム構築。
- ◎ グループ全体の業務効率化の為に、コンピュータネットワークを活用したグループ全体の情報共有を行うグループウェアの構築。
- ◎ 災害による事業継続性の観点から頑強なバックアップ用のサーバーを設ける。
- ◎ 東京貿易ホールディングスを主体とした業務の標準化、効率化を目指すためにISO14000(経営環境マネジメントシステム)の取得を推進。



### 海外市場の拡大にむけて

東京貿易は、1947年の創業以来、他社に先駆けて中国、ロシア、豪州等独自の市場戦略に基づき海外展開をし、現在世界72カ国との取引を行っております。自動車産業のアジアの集積地とし成長しているタイ、GDP世界第2位の中国に加え、将来の世界経済を牽引する巨大市場インド、民主化により経済発展が期待されるミャンマー、内需拡大でアセアン諸国でも成長率の高いインドネシアなど今後経済成長が見込まれるアジアと、巨大市場アメリカと隣接して自動車・家電などの製造業が好調で安定成長を続けるメキシコを中心とした北・中・南米を重点市場として、インド、インドネシア、ベトナム、メキシコ、中国では上海・北京に加え成長する広州などに着々と海外拠点網を拡大しております。このネットワークをグループ全体で活用し、世界で活躍するグローバル人材の採用・育成プログラムを更に充実させ、「エネルギー機械産業」「技術・自動車・情報産業」「資源・鉄鋼・資材産業」「医療・生活・科学産業」の分野で、日本の高品質の製品を提供すると共に、各地域の発展に貢献する事業を展開してまいります。



エネルギー・機械産業グループ

国内グループ 東京貿易機械株式会社

## PowerNES実用化製品第一号を市場投入へ

PowerNES(ソーラパネルとリチウムイオン電池の組合せによるパワーモジュール)により、WEBカメラと携帯電話ルーターを動かす用途で、画期的な独立電源による遠隔監視を実現しました。本年3月、河川の河口閉塞や水門の監視用として三重県に初号機を販売しました。パソコンで監視映像を遠隔地で確認できるため、災害時の河川監視や山崩れ監視向けに、また、放送業界からは、昨年の内閣府及び総務省からの「震災等による停電後3日間の放送機器の稼働」要請への対応策として需要が見込まれます。



遠隔監視システム

国内グループ ニイガタ・ローディング・システムズ株式会社

## LNG需要の拡大に対応

発電用エネルギー源が原子力から火力に移行され、LNGの需要が急速に高まっております。大幅な需要増に答えるため、関連する出荷および受入基地の拡張や建設が近々行われると考えられます。この状況より、LNG用ローディングアームや低温バタフライ弁等の当社製品の需要も期待されます。写真は昨年度当社長岡工場でお客様の立会いのもと行われたLNG用ローディングアームの作動試験風景です。



LNG用ローディングアーム  
作動試験風景

国内グループ 東京貿易メカニクス株式会社

## クリーンエネルギー関連機器の開発

2012年度は従来から開発してきた「水素分離膜」の試験機を石炭業界の共同開発パートナーの研究所に納入することができ、実証試験ステージに入りました。今後約2年間の実証試験を経て、商品化を進めて参ります。更に行政が推進している「水素ハイウェイ構想」により2015年度までに全国100ヶ所に水素ステーションが建設されます。これに向け、石油業界の企業と組み、水素コンプレッサーの販売を計画しております。新たなクリーンエネルギーの普及を目指し、関連機器の開発、販売を更に進化させております。



「水素分離膜」設置工事中



出所: HYSUTホームページ  
JX杉並水素ステーション

技術・自動車・情報産業グループ

国内グループ 東京貿易テクノシステム株式会社

## 非接触自動測定機「COMET ROBOT」を開発

近年、ものづくり産業の自動化が進む中、当社はドイツから輸入しているカメラ式非接触測定機「COMET」とロボットを組合わせた「COMET ROBOT システム」を開発いたしました。このシステムは測定対象物を自動回転テーブル上に載せるだけで、ロボットに取付けられたCOMETが当社開発のオフラインティーチングプログラム(コンピュータ上でロボットの動きを教示)で完全自動測定をするものです。この様に海外の製品に当社独自の技術を組合わせ、システムとして提供することも、当社が目指す自社商品比率の向上の一貫であり、システムとして付加価値を高めるものです。厚木と豊田で行われたプライベートショーでは、お客様から好評を博し今後の販売拡大が期待されます。



COMET ROBOT システム

国内グループ 株式会社ティービックス

## 全社共通基幹システム「TIS」が本稼働

東京貿易グループ全社共通基幹システムである「TIS」が本稼働致しました。ティービックスでは、更なる機能向上を目指して連結決算システムとの連携や、経営分析データの有効活用を志向したBIシステム構築に取り組んでおります。又、スマートフォン、タブレット等のモバイル端末からのアクセス対応、並びに、最新の情報技術を駆使して、グループウェアをも取り込んだグループ連邦経営のシステム基盤構築に寄与してまいります。

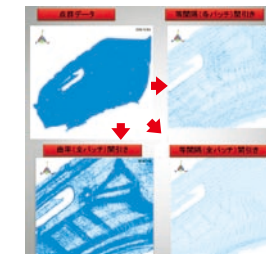


TISサーバー

国内グループ テービーテック株式会社

## 三次元測定機用解析ソフト商品力アップ

新バージョンとなる2012年版向けの機能開発を行いました。ベストフィット機能、曲率間引き機能、ウィザード編集機能、ポリゴンデータの軽量化などの新しい機能を追加することにより、より一層商品力が向上しました。2013年5月からは、導入客先向けにバージョンアップセミナーを東京貿易テクノシステムと共催し、機能紹介を行ってまいります。



【ワンポイント解説 “間引き” とは?】  
大量点群データを元にして、特徴形状を維持しつつデータ量低減を図ること。間引きの方法としては、等間隔間引きや曲率間引きなどがあります。

技術・自動車・情報産業グループ

海外グループ TOKYO BOEKI NORTH AMERICA, INC.

## メキシコ市場拡大と拠点設立

2012年は、米国の自動車販売台数が、リーマンショック以降で最高の1,449万台に達し、2013年も引き続き堅調に推移し1,500万台を超える事が予想されています。自動車関係は、メキシコ市場への投資が活発化、ホンダ、日産、マツダ、及びサプライヤー等の工場の新増設プロジェクトでTBNAの受注も好調で、さらに同市場でのビジネスを拡大する為、現地会社を設立する事を決定し、7月の設立を目指し、手続き準備を行っています。



メキシコ拠点の要員教育。  
6月に納入予定の自動車部品自動測定システムの  
メンテナンストレーニング

海外グループ TBTS (THAILAND) CO., LTD.

## 急成長する自動車サプライヤー市場

大規模な洪水から復旧した2012年後半以降、タイの自動車業界は大増産に転じました。この旺盛な需要を受けて、既存サプライヤーは一斉に増産に対応するための設備増強を開始し、更に他業界からの参入企業の出現や、新たにTier1に昇格するローカルサプライヤーの本格参入などによりサプライヤー市場は急拡大しています。また、生産力増大のみならずR&Dなど現地法人の業務拡大を志向する企業や2015年のASEAN統合を睨んだ地域統括本部化など需要の多様化も始まっており、急成長する自動車サプライヤー市場は、今後更なる有望市場と期待されています。



IT家電業界から新規参入し、  
自動車業界Tier 1を目指す  
日系ダイキャストメーカー  
Shin-eiにCCD型非接触System  
Cometを初成約

純Local企業TATIC  
パネル測定用として  
非接触Vectoron Systemを  
初成約

海外グループ 東京貿易技研(広州)有限公司

## 外資系自動車メーカーR&D新設の動き

世界最大規模の自動車生産国となった中国では、外資系自動車メーカーは、生産拠点のみならず、現地の消費者のニーズにあった車両を開発するなどの理由から、開発研究拠点の設立を進めており、弊社にとって大きなビジネスチャンスとなっております。日系自動車メーカーへの東京貿易テクノシステム製クレイモデル加工機、三次元測定機の大量納入に続き、日系だけでなく欧米系メーカーへの拡販が期待されます。



デザインで使用する  
クレイモデル加工機

資源・鉄鋼・資材産業グループ

国内グループ 東京貿易金属株式会社

## インド・ヒマドリ社と戦略的パートナーシップ契約を締結

カーボンブラック、コールタールピッチ、リチウムイオン電池負極材などの多種炭素化学製品を製造するインド・ヒマドリ社と戦略的パートナーシップ合意書を締結しました。同社製品の取扱いを開始し、新規事業への取組みも進めています。戦略市場であるアジア・オセアニア圏において、中国、オーストラリア、インドネシア、ベトナム、インドの海外拠点を活用し、更なる事業拡大を図っています。



ヒマドリ社工場

海外グループ TOKYO BOEKI (AUSTRALIA) PTY.,LTD.

## 豪州からアジア全体の市場へ

日本⇄豪州という従来の取引に加え、アジア・オセアニアの中の豪州として、アジア全体を舞台に事業化に取り組んでおります。豪州の褐炭加工技術を使ったインドネシアでの電力事業、豪州・東南アジア・日本を市場とした肥料事業、豪州・インド・日本を繋ぐグラフィック事業などで、グループの海外法人・海外事務所との連携を強め、アジア・オセアニア圏での発展を実現していきます。

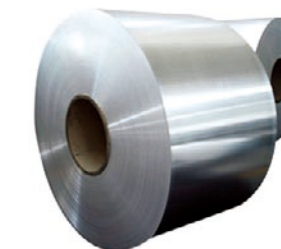


石炭ブリケット製造工場

海外グループ 東京貿易(中国)有限公司

## 資源産業向け鉄鋼製品販売が拡大

かねてより進めている資源産業向け鉄鋼製品の販売が順調に伸びています。世界の製造基地である中国は資源産業用各種設備も世界に多く輸出しており、それらの設備メーカーに日本の高品質鉄鋼製品を販売しています。国際経済環境が不安定な中でも資源需要は伸びており、今後とも資源産業向けの鉄鋼製品需要は堅調に推移して行くと思込んでいます。高品質鉄鋼製品と需要家への細かなサービスを武器に引き続き販売を伸ばしていきます。



高品質の日本製鉄鋼製品

資源・鉄鋼・資材産業グループ

海外グループ 東京貿易(北京)有限公司

## コークス炉用レンガの日本向け独占販売権を取得

主要事業の耐火物事業は、中国耐火レンガの安定供給を行いながら、洛陽製コークス炉熱間補修用レンガを開発し、日本向けの独占販売権を取得しました。また、機能性耐火物などの高付加価値商品を幅広いお客様へご提供できるよう進めております。開発部門では、酸化クロム、ピッチ、更にロシア向けに電車ブレーキボックス用の鋳物加工品を開拓し、これらを主要事業として確立させるべく推進しています。



熱間補修レンガ

医療・生活・科学産業グループ

国内グループ 株式会社ティーピーアイ

## メーカー商社の実現に向けて

当社は、トータルサービス、メーカー商社の実現に向け、セキュリティ事業を核とし、デジタルサイネージ、デジタルインカムシステム事業と領域の拡大を図っております。韓国 SAMSUNG TECHWIN社とのパートナーシップのもと、事業を通じ社会の安全・安心に貢献してまいります。また、2012年よりセキュリティ事業において、独自のティーピーアイブランドカメラを日本市場に投入し、私たちの目標のひとつであるメーカー商社の実現に向け一歩前進しました。



サムスンテックウィン  
セキュリティ製品

ティーピーアイブランドカメラ

国内グループ 東京貿易メディシス株式会社

## 生化学自動分析装置ビオリスシリーズ 新製品 販売開始

累計販売台数5,300台以上の販売実績を誇るビオリスシリーズの基本コンセプトである、「コンパクトで高性能、高品質」を継承した、ビオリス50iスベリアとビオリス15iネオの販売を開始しました。3機種のラインナップにより、更にブランド認知力を高め、顧客層を広げ、メディカル事業の拡大を目指します。

※ ビオリス50iスベリア:主に中規模クラス以上の病院で血液検査等を行う最新の中型機種です。

※ ビオリス15iネオ:主にクリニック等の個人病院をターゲットとした小型機種です。



BiOLIS 50i superior

BiOLIS 15i neo

国内グループ 東京貿易テクノロジー株式会社

## 資源エネルギー分野での拡販に向けて

2012年6月16日~21日、天然ガスの生産・供給に於いて世界最大のガスプロム社の本拠地ノーヴイ・ウレンゴイ市(ロシア、北西シベリア)にて開催された溶接展示会に現地ディーラーと共同で出展しました。展示会には当社取引先メーカー デンヨーも出張参加し、ロシア特殊仕様機の展示・デモを実施、好評を博しました。ロシアでは、今後も資源エネルギー分野向けにパイプライン補修用エンジン溶接機の需要増が見込まれるため、同分野での拡販を図ってまいります。

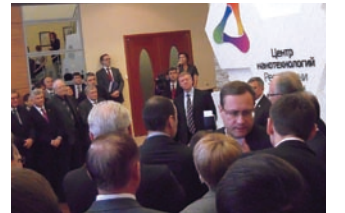


「溶接展」当社ブース

海外グループ TOKYO BOEKI (RUS) LTD.

## カザンテクノパーク開所式

2012年11月27日、ロシア内タタルスタン共和国カザン市所在の「カザンテクノパーク IDEA」の開所式が開催されました。同テクノパークは、ロシアが国策として力を入れている産業振興の為に設立されたものです。当社は、同機関に日本電子・ニコン・リガク等の理科学機器を昨年納入しており、開所式にて製品紹介を行いました。開所式にはタタルスタン共和国大統領、国営公社ロスナノ社社長はじめ政財界・学会の要人が多数訪問し、日本の先端技術・製品を紹介する良い機会となりました。



開所式の様子

海外グループ TOKYO BOEKI (U.S.A.), INC.

## 環境に優しいエネルギー事業で社会に貢献

当社は、昨今のエネルギー高騰や環境問題に対して、既存の暖房機器販売を更に進化させ、高効率冷暖房機器による部分空調の提案、風力や太陽光によるクリーンエネルギー利用提案などの新規事業を開始し、事業拡大を図っております。更に今後、米国で発展が見込まれるガスエネルギー市場向けの設備機器や資材などの事業を、米国拠点の地の利を活かしつつ、東京貿易グループ各社と協力して、グローバルに展開してまいります。



風力発電



ヒートポンプ(エアコン)

単位:千円

科目	93期	92期
	2012.4.1~2013.3.31	2011.4.1~2012.3.31
売上高	44,791,763	46,236,485
売上原価	33,434,142	34,480,420
売上総利益	11,357,620	11,756,064
販売費及び一般管理費	8,361,978	8,945,117
営業利益	2,995,642	2,810,946
営業外収益	224,062	199,509
営業外費用	180,841	112,985
経常利益	3,038,862	2,897,471
特別損失	—	30,477
税金等調整前当期純利益	3,038,862	2,866,993
法人税住民税及び事業税	887,977	1,897,496
法人税等調整額	399,014	△ 383,335
少数株主利益	36,450	528
当期純利益	1,715,421	1,352,304

連結損益計算書

単位:千円

科目	93期	92期
	2013.3.31現在	2012.3.31現在
[資産の部]		
流動資産	22,188,865	21,672,815
固定資産	6,643,886	6,520,408
資産合計	28,832,751	28,193,224
[負債の部]		
流動負債	13,570,321	16,394,889
固定負債	2,187,504	874,993
負債合計	15,757,825	17,269,882
[純資産の部]		
株主資本	13,362,561	11,635,966
その他の包括利益累計額	△ 358,296	△ 713,153
少数株主持分	70,661	529
純資産合計	13,074,925	10,923,342
負債・純資産合計	28,832,751	28,193,224

連結貸借対照表

会社概要 (2013年3月31日現在)

東京貿易グループ ..... 東京貿易株式会社  
及びグループ19社

設 立 ..... 1947年(昭和22年)10月30日

株 主 資 本 ..... 133億円

従 業 員 ..... 911名

本 社 ..... 東京貿易株式会社  
(純粋持株会社) 〒104-8510  
東京都中央区八丁堀2丁目13番8号

株式の状況

発行可能株式総数 ..... 38,519,920株

発行済株式総数 ..... 5,045,165株

株主数 ..... 121名

主要な法人株主

株主名	持株数	持株比率
東買持株会	806千株	15.98%
東京海上日動火災保険株式会社	498千株	9.87%
トーマ再保険株式会社	408千株	8.08%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249千株	4.93%
日本生命保険相互会社	120千株	2.37%

東京貿易株式会社 役員紹介 (2013年6月28日現在)

取締役

代表取締役会長兼社長 グループ経営統括 ..... 町田 弘

取締役副社長 グループ新規事業戦略担当 ..... 五阿弥 英也

取締役副社長 グループ新規商品・新技術戦略担当 ..... 井口 孝夫

取締役副社長 グループ新経営システム戦略担当 ..... 上田 俊昭

取締役副社長 グループ海外市場戦略担当 ..... 田中 政義

専務取締役 グループ経営機能推進担当 ..... 漆崎 久司

取締役 コンプライアンス担当 ..... 川田 敏郎

監査役

常勤監査役 ..... 毛塚 利彦

監査役 ..... 伊藤 宣實

監査役 ..... 沼田 安弘

当社グループ ホームページのご案内

www.tokyo-boeki.co.jp





## 東京貿易グループ

〒104-8510 東京都中央区八丁堀2-13-8 TEL.03-3555-7211 FAX.03-3555-7079  
<http://www.tokyo-boeki.co.jp>



この冊子は環境に配慮して、  
植物油インキを使用しています。